

200年3月31日

発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 杉崎太吉
 所在地 町田市相原町 798-1
 電話 042(774)8005
 印刷 木村印刷



「夕焼け小焼け」の碑を建てました



童謡「夕焼け小焼」ゆかりの地

童謡「夕焼け小焼」は大正8年(1919年)中村雨紅により作詞されました。
 中村雨紅(本名 高井宮吉)は大正6年(1917年)東京府南多摩郡恩方村(現 八王子市)の高井家から、おばの家であるここ南多摩郡堺村(現 町田市相原)の中村家の養子となり中村宮吉となりました。
 このときからペンネームを中村雨紅と名乗りました。
 大正12年(1923年)結婚のため養子縁組を解消しました。
 中村雨紅が「夕焼け小焼」を作詞した時は中村家に在籍していました。

2010年3月 相原まちづくり協議会

相原まちづくり協議会は童謡「夕焼け小焼け」の碑を中相原町の諏訪神社の権禰宜の中村武比古氏の屋敷に設置しました。その除幕式を4月17日に行われました。「夕焼け小焼け」の作詞者の中村雨紅は大正6年(20歳)から大正12年(26歳)まで中村家の養子でした。「夕焼け小焼け」の発表は、大正8年(22歳)ですから、相原町に戸籍のある時です。このため、「夕焼け小焼け」の舞台は、相原町であることが想定されます。相原まちづくり協議会が碑を建てたのは中村雨紅が相原町のゆかりの作詞家であり、「夕焼け小焼け」が相原と関連があることを周知してもらおうことです。大戸の八木重吉の記念館とともに、中村雨紅の碑を街おこしの一つになることを期待しています。

建設した碑は高さ1.5m、横幅1mです。碑には「夕焼け小焼」の作詞「一 夕焼け小焼で日が暮れて、山のお寺の鐘が鳴る、お手々つないで、みな帰らう、鳥と一緒に帰りませう。二 子供が帰った後からは、円い大きなお月様、小鳥が夢を見る頃は、空にはキラキラ金の星」が書いてあります。「中村雨紅」は自筆のサイン文字を使用しました。これは、著書「中村雨紅詩集集」(昭

和46年発行)を氏の教え子、大戸在住の西山のぶさん(杉崎太吉氏の義母)に贈呈した時のサインです。またバックの夕焼の写真は丸山団地にお住まいの東原利次さんが撮影されたものを使わせていただきました。「夕焼け小焼け」が誕生してから2019年で100周年になります。その時は石で出来た碑の建立が考えられています。

碑の場所は中相原町の中村家

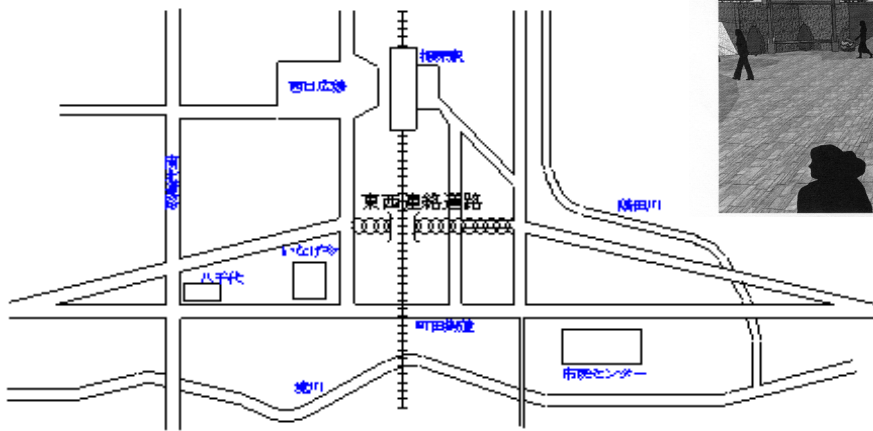
中村雨紅はペンネームです。本名は高井宮吉といます。明治30年に東京府南多摩郡恩方村(八王子市)に高井丹吾氏の次男として生まれました。大正5年に青山師範を卒業のあと、日暮里の小学校の教師になっています。大正6年に南多摩郡堺村(相原町)中相原の中村武造氏の養子となりました。中村雨紅のペンネームの「中村」は、この時から使っています。高井家と中村家の両家は宮司職で、親戚関係にあります。高井丹吾氏の妹が中村武造氏の妻です。武造氏には子どもがいなかったため、甥を養子に迎えました。養子縁組を解消したのは、神主職にならないことが、はっきりしたからです。解消と同時に大正12年に本城千代子さんと結婚しています。中村雨紅氏は日暮里の小学校などの教師のあと、昭和元年に神奈川県立厚木実科高等女学校(厚木東高校)の教師を務め、昭和47年に厚木市で逝去されました。75歳でした。碑を設置した中村武比古氏の場所は中相原町の町田街道沿いで、行昌寺の隣です。バス停「根岸」のそばで、町田街道からも見えます。ぜひ、一度、見に行ってください。



2009年相原駅周辺街づくり及び都市整備報告会 駅前商店街、東西に回遊路の設置

3年間にわたって大戸踏切の立体化や駅周辺整備など検討してきた「相原駅周辺街づくり及び都道整備検討会」の報告会が3月22日に堺市民センターで行われました。

町田街道の交通渋滞の元凶である横浜線大戸踏切（駅前の踏切）の立体化は地元の長年の願望でした。東京都は平成18年に「多摩地区における都市計画道路の整備方針」の第三次事業化計画の中で、町田3・3・36号線（町田街道）が今後10年間で東京都施行により優先的に整備すべき路線として選定されました。



これに伴い東京都の呼びかけで同年10月に「相原駅周辺街づくり及び都道整備検討会」（石井悟座長）が発足しました。現地視察を含め50回の会合を重ね、報告書をまとめました。

報告会では石井座長から、検討会の経過と「相原駅周辺街づくり宣言」（[こちら](#)に掲載）の説明がありました。石井氏は「大戸踏み切りの立体化だけでなく、相原駅は街の顔であり、西口は開発が進んでいますが、東口はそれなりの広さになっていません。初期は10数人で検討してきましたが、途中からコンサルタントを入れてもらい検討してきました。3つの分科会を設置して、市役所が事務局を担当してもらいました。昭島駅、福生駅の周辺などの現地も視察しました。構想はいろいろな意見がありました。コンセプトにあるように地域の自然・歴史・文化資源を継承した相原駅周辺の街づくりを目指しました」と強調しました。

3つの分科会の「大戸踏切立体化と都道整備に関する分科会」は中島孝幸代表、「駅東の街づくりを検討する分科会」は杉崎太吉代表、「駅西の街づくりを検討する分科会」は横溝廣喜代表がそれぞれ報告しました。

「相原街づくり構想」によると、横浜線との立体化は中央橋から八千代銀行前まで、地下に入るアンダーパスになります。立体化により踏切の渋滞の解消、地区交通の円滑化、沿道環境の形成を行います。道路が分断されることから、市民センターの移転も検討します。駅周辺街づくりでは、大戸踏切の立体化にあわせ駅前整備を進め、駅と大戸踏切の間に、横浜線の東西をつなぐ地下道を造り、歩行者・自転車路

町田街道旧道の東西連絡通路



にします。線路沿いにある市有地を活用して公共・公益的な機能、大学サテライト、商業機能を強化して、安心して歩き、買い物ができる

回遊路にします。

東口駅前には地域の顔・拠点として機能を整えます。具体的には、駅東のゲートとなる駅前広場の整備、相原地域を象徴するアートによるシンボルデザイン

東駅前路地商店街 新商店街の坂



商業・業務・公共公益サービス、都市型居住機能の誘致・移転、駅前の商業機能の強化をあげています。

駅前から町田街道へ陽田川沿いに大きい道路を整備し、中央橋付近に、新たな十字の交差点を造り、堺市民センターへのアクセスを確保します。生活道路の確保では規制・誘導による道路づくり、空地・未利用地の確保です。

西口駅前には地域の顔・拠点として、相原地域を象徴するシンボルデザイン、地域の顔としての町並みの形成、商業・業務・公共公益サービス、都市型居住機能の誘致・移転を行います。西口駅前街区では、相原に相応しい駅前、駅前と連動した多機能な複合型の街づくり、中密度・中層の街づくり、新たな人口の受け入れなどをあげています。

都市計画決定は3、4年後に

今後の進め方について、市から「この提言を市として重く受け止めて、今後の街づくりを進めていきたい。今回いただいた提言は、構想なので、今後は実際、具体的に街づくりを進めていく段階になります。それには時間がかかります

す。住んでいる人たちの意見も調整していかなければなりません。一般的に都市計画が決まるまでに3年から4年くらいかかります。しっかり時間をかけて合意形成を図っていきたい」との説明がありました。

相原町周辺で各種の道路整備が進行 注目される4線

1、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

現在工事中の八王子 IC から八王子南 IC（八王子市南浅川）までの区間は平成 24 年度開通予定です。八王子南 IC から城山 IC の区間も平成 24 年開通予定です。

2、さがみ縦貫道路

圏央道の一部、城山 IC から西久保 JCT（茅ヶ崎市）までが「さがみ縦貫道路」の名称になります。

完成目標は平成 24 年度です。これが完成すれば湘南までの所要時間は相当短縮されます。

3、八王子南バイパス

圏央道八王子南 IC から館町に抜けるトンネルの工事は今年 7 月に完成する予定です。将来的には館町の交差点から八王子医療センター前を通り八王子南野をかすめ八王子バイパス（16号バイパス）につながる予定です。相模湖方面への観光には相当な時間短縮になります。また八王子南 IC が完成すれば関越道・信越道・東北道・常磐道へのアクセスが良くなります。（写真は館町に姿を見せたトンネル）



4、相原宮下線（あいはらみやしもせん）

圏央道（さがみ縦貫道）城山 IC（仮称）が完成すれば、城山 IC から橋本・町田方面への車の流れが多くなります。

それを緩和するため現在相模原市相原から相模原市宮下

（米軍基地）までの道路の拡幅と横浜線の立体交差工事が始まります。用地買収も進んでおり一部

相模原市相原から16号元橋交差点までについては平成24年度を完成の目標にしています。（工事現場にある完成予定のイメージ）

IC=インターチェンジ JCT=ジャンクション



大戸緑地の

大戸緑地は小仏層を基盤とする山地のため色々な樹木・野草が見られます。

3月に入って最初に目に付くのは「アブラチャン」の可憐な黄色い花です。大地沢青少年センターの沢に沿って黄色く染まります。

陽だまりには名物のスミレ。「タチツボスミレ」「アオイスミレ」「ニオイタチツボスミレ」「ヒ



春

メスミレ」「アカネスミレ」「エイザンスミレ」等が可憐な姿を見せています。また「春蘭」「きぶし」「上溝桜」・「稚児ゆり」「アマドコロ」「ヤマボウシ」「ミヅキ」「破れ傘」「カンアオイ」「耳形テンナンショウ」「浦島草」「猫目草」「よごれ猫目草」「垣どおし」「筆リンドウ」「山ルリ草」「ヤマウグイスカズラ」等々数え切れません。植物図鑑をもってぜひ訪れてみてください。（大戸源流森の会より）

相原にTV「ちい散歩」が来ました

「ちい散歩」はテレビ朝日の人気番組です。俳優の地井武男さんが都内（時々地方や外国にも行きます）のいろいろな駅に降り立ち、周辺を散歩しながら紹介します。

3月16日（火）の放送で相原が紹介されました。

コースは相原駅 青木家屋敷 境川 竹とんぼ工房竹生庵（相模原市相原） 明月堂 諏訪神社 靴工房 Momo

青木家屋敷の茅葺の見事さ、庭を週1回管理するボランティアの方々の紹介。境川に掛かる橋の上から東京と神奈川の県境である境川を紹介。竹生庵では竹とんぼ作りに熱中する土屋敏雄さんと出来上がった竹とんぼのすごさを紹介。明月堂では草餅を食べ、店主の飯島保彦さんの自慢話2話。諏訪神社では権禰宜の中村武比古さんと境内の樹齢500年のケヤキの素晴らしさを語り、最後の靴工房 Momo では店主の時田博之

さんのオーダーメイドの靴の出来るまでの話を聴いて感心。

散歩を終えた地井さんは最後に相原の印象について次のように締めくくっています。

「昭和を思わせるような風景にたくさん出会うことが出来ました。たったの都心から1時間ちょっとでこの町に来れるんですね。これからの季節、散歩コースとしてはすごく良いのではないのでしょうか。駅からリュックサックでもしよって降りて、里山の方に向かえば必ず間違いのない風景に出会えると思います」



相原遺産

今回は町田市相原町にある5つのお寺を紹介します。東から「道林寺」「清水寺」「長福寺」「行昌寺」「圓林寺」。

それぞれの宗派は表を参照ください。

創建はいずれも西暦1400年から1650年の間で歴史のあるお寺です。これらのお寺には町田市文化財に指定されたものが数多く残されています。ぜひ1度訪ねてみてください。（写真は長福寺）



それぞれの詳しい記事は次回「あいとぴあ」より順次掲載します。

寺名	相原町(番地)	創建	宗派
瑞光山道林寺	597番地	1655年	臨済宗 妙心寺派
端石山清水寺	701番地	1624年	臨済宗 妙心寺派
寿國山長福寺	2109番地	1625年	曹洞宗 総持寺派
地蔵山行昌寺	3020番地	1533年	曹洞宗 総持寺派
雲乗山圓林寺	3726番地	1428年	天台宗 延暦寺派

編集後記

「あいとぴあ」は平成8年に初号を発行してから今号で33回を数えます。「あいとぴあ」の名称の由来は相原の「あい」とユートピア(理想郷)の「とぴあ」の合成したものです。発足当初はワープロで文字を打って台紙に貼り付けて印刷しました。3号からワープロを使って組むようになりました。当初は、今村忠司氏邸で原稿を書き直したり、パソコンで組んだりしました。しかし、パソコンに慣れていないため、組み終わってから、記事が消えてしまったり、毎回、夜中までかかりました。失敗を重ねながら、軌道になり、手作りの今日の形ができました。

編集で心がけてきたのは、お知らせ広報ではなく、市民の目線で、住民が関心あるものを全面に出して、相原町全体のローカル紙的役割を果たしたい、住民の体温が伝わるような紙面にしていきたい、ということでした。編集の力不足や情報が十分収集できていなかったり、紙面の制約から、消化不良だったりして、反省することは多いです。しかし、相原の街づくりの記録を刻む証言者の役割を果たしてきたのではないのでしょうか。今後、相原をよくするために、まちづくり協議会の役割が、ますます大きくなるように、「あいとぴあ」の機能も重要になってきます。さらに内容を充実して、住民の期待に応えられる紙面を目指していきます。